



“シルバー先生”の放課後勉強室

静岡県浜松市は、ヤマハ・カワイなどの楽器メーカー、スズキ・ホンダなどの自動車メーカーなど名だたる企業が集まる工業都市で、多くの外国の方々が働いています。国も、ブラジル、フィリピン、ベトナム、中国など様々。家族連れの方も多く、その子どもたちは地域の学校に通い、日本人の子どもたちと一緒に勉強しています。

浜松市立浜名小学校でも、近年外国の子どもたちが急増。言葉は話せるようになっても、日本語の読み書きは難しく、中でも漢字は大変です。

そんな子どもたちに、少しでも早く学校や地域に慣れてもらい、学校生活が楽しくなるようにと、仕事をリタイアしたシルバー世代の人たちが、2013(平成25)年4月より『浜名小放課後勉強室』をスタートさせました。

希望者を募り、低学年児童には月曜日、高学年児

童には水曜日の放課後、勉強室を開催しています。勉強はマンツーマンで、一人ひとりの学習レベルに合わせて行い、授業の補修や宿題の手助けを1時間ほどしています。日本語は通じて、言葉の壁はあまりないので、言葉の意味や漢字の書き順などを分かりやすく教えるよう心がけています。

メンバーの一人、袴田悦史(69)さんは「子どもたちが『ありがとうの会』を催してくれました。歌とゲームに参加し、楽しいひとときでした。この親睦を続けていきたい」と話します。

シルバー先生の勉強室は、まさに国際交流。子供たちの生活と成長をサポートするため、息の長い活動が期待されます。

勉強室の皆さんには、静岡県本部より「小さな親切」実行章を贈呈しました。